

情報通信審議会 情報通信技術分科会
IP ネットワーク設備委員会（第 21 回）
議事要旨

1 日時

平成 24 年 4 月 9 日（月）17 時 00 分～17 時 40 分

2 場所

総務省第 1 会議室（10 階）

3 出席者（敬称略）

（1）委員会構成員

相田 仁（主査）、浅見 洋、近藤 寛人、持麿 裕之、森川 博之、矢入 郁子

（2）オブザーバ

木村 孝、平 和昌、中西 廉

（3）事務局（総合通信基盤局 電気通信事業部 電気通信技術システム課）

原口 電気通信事業部長、野崎 電気通信技術システム課長、
中沢 番号企画室長、山路 安全・信頼性対策室長、根本 課長補佐、
村田 課長補佐、篠澤 課長補佐、清水 課長補佐

4 議事

■事務局より、資料 21-1-1 に基づき、安全・信頼性検討作業班の開催について説明があった。作業班の主任は相田委員が務めることとなった。質疑応答は特になし。

■事務局より、資料 21-1-2 に基づき、技術検討作業班の開催について説明があった。作業班の主任には森川専門委員が指名された。質疑応答は特になし。

■事務局より、資料 21-1-3 に基づき、通信品質検討アドホックグループの開催について説明があった。アドホックグループの主任には酒井構成員が指名された。以下の質疑応答があった。

○ ソフトフォン等の新しい技術を使った電話で回線交換の電話と同様の品質を保つということを目的としている点では、三つの場での検討には共通点があると考えている。アドホックグループの検討成果が、他の作業班にフィードバックされるということか。

○ そういうことも考えられる。通信品質検討アドホックグループは、作業班ではなくアドホックグループと位置づけていることから分かるように、通信品質に関して幅広く検討して欲しい。制御信号増加による障害については安全・信頼性検討作業班、ソフトフォン等の基準については技術検討作業班で議論して頂きたい。作業班の間で連携を取りながら検討を進めていくことを考えている。

○ ソフトフォンには有料と無料のものがあるが、世界市場を見据えて、規範となるものを考えて行く必要があると考えている。

○ 現在、耐災害性の強化に関する技術基準の見直しについて、パブリックコメント中であると思うが、安全・信頼性検討作業班で行う作業は現在改正中の技術基準を、ガイドラインにも反映する作業なのか。位置づけ等を明確にして欲しい。

- IP ネットワーク設備委員会で議論され、2月17日に一部答申されたもののうち各社の防災対策の公表等、強制基準である技術基準改正案に盛り込んでいないものを、努力目標である安全・信頼性ガイドラインにどのように盛り込むかについて議論していただきたい。さらに、スマートフォンの通信障害等を踏まえた安全・信頼性基準の見直し、新たなサイバー攻撃等に対応するためのセキュリティ対策の見直しを含めて、総合的にガイドラインを見直していただきたい。また、必要に応じて技術基準を改めることもあり得ると考えている。
 - VoLTEなどは早くサービスインをしたいという要望があると思うので、技術基準等のできるのところから早めに結論を出す一方で、時間をかけるところはしっかり議論して行きたいと考えている。
- 事務局より、資料 21-2 に基づき、今後の IP ネットワーク設備委員会と作業班等のスケジュールについて説明があった。